

令和6年度東京都立久留米西高等学校 学校経営報告

校長 福原 利信

1 目指す学校

1 スクール・ミッション

更なる情報化社会を見据え、多岐にわたる進路希望を実現するため、生徒一人一人が達成感、充実感とともに感動体験のできる学校を目指します。自然豊かな環境の中で、探究活動をはじめとする地域と連携した教育活動や部活動を通して、「なりうる最高の自分」を目指して、健全な社会の構成者として自他を尊重し、社会貢献する人材を育成します。

2 教育目標

建学の精神である「すすんで学び すこやかで 思いやりのある人をつくろう」の理念に則り、全教職員の共通認識と理解のもと、生徒自身に在り方生き方を考えさせ、自ら学び自ら進路を切り拓くことができ、真に生きる力を有する人間を育成する。また、規範意識の醸成を図り、心身ともに健康で自他の生命や人格を尊重し、思いやりのある人間を育て、社会の一員として希望豊かな未来を創造することができる人間を育成する。また、生徒一人一人の個性・資質・能力を最大限に伸ばし、生徒の進路開発を主軸に据えた教育の実現を目指すため、3年間を通じて基礎・基本の徹底と応用力の育成を図る。

3 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

本校では、次に挙げる「資質・能力」を生徒に身に付けさせます。①SDGs（持続可能な開発目標）の理念をもとに、グローバルとローカルを融合させ、ナショナルを超えた地球市民としての力。②グローバル化と情報化がすすむ現代社会を生き抜く力。③AI・データサイエンスの社会的リテラシーの力。④自分で考え、動く力。⑤自分が選んだ道を正解にする力。

(2) カリキュラム・ポリシー

本校では、次に挙げる教育活動を展開します。①基礎学力の定着と知識・技能についてバランスのとれた能力の育成。②主体的な学習態度と学習習慣の定着（朝学習及び家庭学習）。③一人一人の探究心に応じた学習に取り組めるような教科・科目を設置。④英語・数学では習熟度授業を基本とした授業。

(3) アドミッション・ポリシー

本校では、自らすすんで学ぶことができ、すこやかで、自他の生命や心を大切にする人間の育成に努め、さらに、自発的に学ぶ意欲を高め、自己の進路を意欲的に開拓して実現できる生徒を育成しています。また、自らを律して社会で活躍できることを願い、生活習慣の確立を目指した生活指導を徹底して行っています。以上のことを踏まえ、本校では次のような生徒を求めています。①知的好奇心をもって自ら学び、大学等へ進学する意欲が高く、将来の進路実現に向けて努力することができる生

徒②自分自身の考えを言葉でまとめたり、発表したりすることができる生徒③身だしなみを整え、自ら時間の管理を行うなど、規則正しい生活習慣が身に付いている生徒④芸術、文化、スポーツ、奉仕活動等の分野で優れた実績を有し、リーダーシップを発揮できる生徒⑤他者を思いやり、自他共に大切にすることができ、コミュニケーション能力のある生徒

2 中期的目標と方策	
今年度の取組目標	取組内容・成果と課題
(1) 自己の進路を意欲的に開拓できる生徒の育成 ア 3年間の系統的・組織的な指導を行い、全ての生徒が自らの進路を考え実現させる。 イ 教師は、授業を創意工夫し、生徒がみずから積極的に学びに取り組む態度を実現する。 ウ 生徒一人ひとりを大切にし、自己肯定感を育み、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 (2) 社会の一員としてふさわしい生徒の育成 ア 基本的生活習慣を確立させるとともに、規範意識を向上させ、落ち着いた校風の維持を図る。 イ 生徒の主体性を育むために、学校行事を充実すると共に、部活動、生徒会活動、委員会活動の活性化を図る。	(1) 自己の進路を意欲的に開拓できる生徒の育成 ア 生徒が自らの進路を考えさせるため、進路指導部が中心となり3年間の系統的・組織的な進路指導計画を作成し実践した。入学生の進路希望にも変化があり、生徒の希望に合った進路指導計画に見直しを進める イ 若手教員が増える中、研究授業の機会も多くなっている。教員同士の相互授業参観をこれまで以上に増やし、学校全体で授業力向上に今後も務める。 生徒自らが考え、学ぶことができるような総合的な探究の時間の運営を今後も検討する。 ウ 外国人英語補助員が2名配置となり、英語の授業での活用が進んでいる。今後は前任のJET教員のよう、学校行事などにも参加させ、生徒の視野を広げさせたい。また、学期ごとの生徒との個人面談等を通して、生徒一人ひとりの自己肯定感の向上に努める。 (2) 社会の一員としてふさわしい生徒の育成 ア 学校の規律を守り、安心・安全な学校の環境維持に全力を尽くす。規範意識に欠ける生徒が増える傾向にあり、教員の生徒指導に関する統一感に欠ける部分が見えた。生活指導部が中心となり、学年団、他の分掌を含めすべての教員が身だしなみ指導を統一的にできるよう、組織的な対応を充実させる。 一度指導を受けた生徒が、再び指導を受けることが無いよう、生徒の心に響く指導に努める。 イ 体育祭、櫓葉祭、スポーツ大会など教員が計画する部分にできるだけ生徒を関わらせ、生徒を動かして行事を実施しようと努力をしている。また、部活動、委員会活動も教員がある程度引っ張らないと活動できない実態があるが、生徒自身が自分たちでできたと思わせるような、指導を今後も行う。

ウ 地域との連携を図り、地域活動、防災活動等をとおして、地域の一員として率先して行動できる能力を育成する。 (3) 心と体の健康づくり ア 組織的、計画的な体力づくり、健康づくりを推進する。 イ 人権を尊重する教育の推進を図り、いじめのない学校を作る。 ウ 「「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考にした生徒の体力向上及び健康の保持増進を目指す。 (4) 組織的な学校運営 ア 企画調整会議を充実させ、学校経営計画に沿った組織的な取り組みを推進する。 イ ホームページ、中学校、学習塾等に本校のPRを組織的に行い志願者の増加を図る。	ウ 1年生の人間と社会の体験活動では東久留米市のイベントに教員が引率し、地域の皆様と交流を深めることができた。イベントに参加し、主催者から生徒にねぎらいの声をかけていただいた経験は生徒にとって良い体験となった。今後も、生徒が地域活動に参加する機会を作るとともに、学校周辺の皆様と交流する地域と連携した防災訓練や、小学生理科教室、PTA 主催の桜を見る会など、充実を図る。 (3) 心と体の健康づくり ア YSWに加えSCの3名配置を有効に活用し、生徒の心のケアに努めている。次年度も校内別室事業の継続を希望しており、生徒に寄り添い心の健康を育む。 イ 生徒に人権尊重の意識を高める講演や日頃の指導を行っている。また、年2回のいじめアンケートを実施している。安心・安全な学校であるよう教職員が組織的に対応を続ける。 ウ 体力テストの結果を活用し、計画的な体力づくりを、保健体育科が中心となり取り組みを継続する。また、学年末には体育委員会が中心となって「スポーツ大会」を実施した。 (4) 組織的な学校運営 ア 学校経営計画で掲げた目標の達成に向けて、企画調整会議並びに4級職会議を行った。企画調整会議は報告、連絡事項が多かった。組織的な取り組みの具体的指示を管理職が的確に行うことが、組織的な学校運営に必要である。また、校長、副校長、企画室長がより綿密に打ち合わせを行い学校経営計画実現に努めることが必要である。 イ 学校ホームページは、長期休業日を除き毎日更新が行われた。部活動や行事の報告も教員から記事を提出させることで充実が図れた。近隣の200校を超える学習塾に校長自ら学校案内を持参し志願者の増加を図った。次年度に向けて、中学3年生だけでなく、中学1、2年生を学校説明会で受け入れる体制を作ることが必要である。
--	--

ウ OJT を計画的、組織的に推進し教職員に求められる資質能力を高めるとともに服務事故根絶を目指す。 エ 学校運営に関する経営企画室との連携及び自律経営予算の有効活用を推進する。	ウ 若手教員が多く、OJT を実施しているが充分とは言えない。若手教員も自ら考え、行動できるものもいるが、指示を待ってしまう者もいる。分掌、学年での指導に加え、指導教員の指導を充実させる必要がある。 エ 諸事情で3か月間の休職者が出てしまい、業務のひっ迫が起こった。企画室長を中心に他の職員が協力してこの状況を乗り切ったことは評価できる。自立経営予算の有効活用をして、教室のブラウン管テレビの撤去など長年できなかったことを実施した。
---	--

3 今年度の取組目標と方策	
今年度の取組目標	取組内容・成果と課題
(1) 教育活動の目標と方策 ア 学習指導 ○ 生徒が、みずから積極的に学習に取り組む姿勢を引き出す学習指導を行う。(本時の目標の明確化と授業終了時の「何ができるようになった」のか確認) ○ 授業開始と終了時刻の厳守と授業規律の徹底。 ○ ICT タブレットの効果的な活用。授業時間中の活用を全ての授業で毎学期実施する。 ○ 学力向上委員会による生徒の学力向上を目的とした、教師の授業力向上のための研修を年3回実施	(1) 教育活動の目標と方策 ア 学習指導 ○ 研究授業や指導教諭の模範授業では学習指導の工夫を感じることができた。一部の教科では生徒が自ら積極的に学習に取り組む姿勢が見られない授業あった。生徒による授業評価等を参考に改善を促していくことが今後の課題である。 ○ 管理職の授業観察では、チャイムが鳴る時間に教師が教室にいるかを確認した。ほぼ、出来ていたが、生徒はチャイムの後にロッカーに取りに行くなどの状況が見られた。引き続き時間厳守の指導を継続する。 ○ MicrosoftTeams や Classi の活用は行っている。授業中に生徒が ICT タブレットを活用することにチャレンジしている教科も多いが、生徒が、端末を忘れる、充電されていないなどの、最初の段階の指導が十分でなかった。次年度に向けては、ICT 端末を毎日充電して持ってこさせる習慣づけが必要である。 ○ 学力向上委員会として生徒の学力向上に向けた会議は行うことは出来たが、全体研修は出来なかった。各教科会で教材等の共有や指導方法について共有は行われた。授業参観については新規採用

する。また、全教員が年間2回以上、他の教員の授業を参観する。

- 生徒による授業評価を年2回実施し、その結果を各教科で分析し組織的な授業改善を図る。

イ 生活指導

- 生徒主体の学校行事の実施、部活動加入率の活性化を図り、生徒の成就感と所属意識を高めることで自己肯定感を育み、学校満足度の向上を目指す。

- 毎朝の登校指導を行い、身だしなみに対する指導や時間を守る指導を徹底する。

- 全教員が本校の指導基準を共通理解し、遅刻防止・頭髪・服装・化粧等の生活指導を行う。また、情報機器の適切な利用（SNSルール）を徹底する。

- 登下校時の交通ルール、特に自転車通学者へのヘルメットの着用、道路交通法の周知及び徹底を図り、事故を未然に防ぐ。

者の研究授業を参観するなどおおむね実施できた。次年度に向けては観点別評価などについて学校として研修を行い教員の指導力に加え評価の充実を図っていくことが必要と考える。

- 2回の生徒による授業評価をPower BIでクラス、担当者別に詳細に分析した。結果は業務面接時に校長がプロジェクターで映し出し当該教員にフィードバックした。教科毎のデータも作成し教科会で分析をさせた。

イ 生活指導

- 学校満足度は昨年の86%から88%と若干の上昇があったが、十分とは言えない結果となった。生徒主体の学校行事の実施に取り組んだが、生徒が自ら考え、準備をするまでには至っていない。SCへの相談件数も多く、自己肯定感の低い生徒も多かった。次年度に向けて教職員が温かく生徒に接する体制を構築することが必要である。

- 遅刻の生徒は昨年の3150回から1000回以上増加するという実態である。教員からの指導を十分に聞き入れることができない生徒が増加している。次年度は8時35分の遅刻確認1回のみとし、年度当初から遅刻防止に組織的に取り組む必要がある。

- 特別指導件数の大幅増加という結果となった。入学する生徒の層がこれまでとは変わって来ており、これまで通りの指導では改善できない状況に來ている。新規着任者11名となる次年度は指導基準の共通理解からスタートし全職員での指導の徹底を図ることが必要である。

- 登下校時の大きな事故は無かった。自転車通学者にヘルメットの着用を求めたが、十分な成果は得られなかった。入学当初からヘルメットの着用を求める指導の2年目となる来年は更なる指導の充実が必要である。

- 人権尊重の教育を組織的に
行い、いじめの未然防止・早期発見
に努めると共に、体罰、ハラスメ
ントが0の学校とする

ウ 進路指導

- 進路指導部が中心となり、3年
間を見通した指導計画を策定し、
全教員が協力し生徒が自らの進路
を考え進路実現が出来る指導を行
う。
- 探究委員会が外部との連携など
の3年間の指導計画を策定し、全
教員が総合的な探究の時間の実施
に関わり、生徒の学びに向かう姿
勢を育成する。
- 「外部人材を招聘し交流活動や進
路講演会等を実施し生徒がみずか
らの進路を考える力を育成する。
- レベルアップ講習の組織的な実
施。学力不足生徒への補習、補講
の実施。
- 各教科が関連する検定試験を実
施するとともに、合格に向けた指
導を行う。

エ 健康づくり

- 生徒一人ひとりに寄り添い、自
己肯定感を育み生命尊重、自殺
防止の教育に取り組む。

- SNS を利用したいじめ事案が発生した。いじめ
の被害生徒に寄り添い、不登校等になることなく
学校生活が継続できている。体罰については0件
であったが、生徒の人権を意識した指導が十分に
できていない教員がおり、引き続き個別に指導を
行う。具体的には校内放送での呼び出し時に敬称
を付けるよう指示しているができていない教職員
が見受けられることは課題である。

ウ 進路指導

- 進路指導部が各学年と連携して、進路ガイダ
ンス、職業別ガイダンスなど進路に関する系統的な
指導を行い、生徒の意識付けを行うことができ
た。
- 昨年までのカリキュラムをベースに全学年が新
教育課程となり総合的な探究の時間を水曜日5時
間目とし、学年を超えた活動も行うことができ
た。
- 大学、専門学校等の人材を招聘し複数回のガイ
ダンス、講演会を実施することができた。引き続
き本校生徒の希望進路に合った人材を招き進路を
考える力の養成に努める。
- 土曜日の講習をやめ、平日放課後のレベルアッ
プ講習とした。国語、数学、英語科が実施しする
ことができた。また、実力テスト結果に基づく呼
び出し型補習も実施し、学習の定着に努めた。
- 漢字検定2級2名、準2級10名、3級41名合
格・英語検定準2級5名合格をさせることができ
た。漢字検定については学校として取り組ませて
いる事が十分に職員に周知できておらず、国語科
の教員に負担をかけてしまった。次年度はスキル
アップ推進校として、これ以外の基礎スキルが向
上するような取り組みを実施する。

エ 健康づくり

- 担任、養護教諭、SC などが生徒の悩みに丁寧
に対応してくれた。学校行事、クラスでの活動な
どで生徒に役割を与え、自己肯定感を育む教育を

○ 学校行事、特別活動の充実を図り、体力を向上させる。 ○ 特別支援教育に係る研修会を実施し、教育相談的対応を全教職員が理解し、個別の案件に対して適切な対応を取れるように資質向上に努める。 ○ 特別な支援が必要な生徒について、特別支援コーディネーターを中心にスクールカウンセラーや YSW、外部機関と連携し、中途退学者や不登校になることを防止し、生徒の自立につなげる。 オ 募集・広報活動 ○ 本校の指導方針を広く周知し、本校で学びたい中学生の応募数増加を図る。 ○ 学校ホームページの充実を図る。学校行事や部活動の様子を全職員で協力し発信する。 ○ 中学校及び学習塾等を効率的に訪問し、本校の教育活動を PR する。 カ 学校経営・組織体制 ○ 学校経営計画実現のために、自ら考え他の教職員と協力し、その実現のために最大限の努力をする。前年実施の課題を振り返り、必ず改善を行う。	行った。来年度も教職員が一丸となって生徒を温かく育てる環境づくりに努める。 ○ 体育祭、スポーツ大会、マラソン大会等体育的行事に加え、運動部活動などで体力向上に努めた。 ○ 国立障害者リハビリテーションセンターより講師を招き、生徒理解の研修会を行った。若手教員を中心に 20 名程度の参加があった。 ○ 養護教諭、SC、YSW が個別の案件に丁寧に対応することができた。しかし、不登校、退学、転学者の数は昨年を上回る結果となった。副校長による、地域の児童相談所、子ども家庭センターなどとの連絡、連携も円滑に行われている。 オ 募集・広報活動 ○ 広報活動の充実を図り、本校の指導方針を説明回答で説明した。その結果、推薦入試で昨年 2.15 倍から今年 2.27 倍、学力入試で 1.08 倍から 1.18 倍と若干の向上が見られた。 ○ ホームページの更新は一部の教員からは協力を得られたが、すべての教員が広報活動の重要性を認識できていない。次年度に向けては組織的に対応し、すべての職員がかかわれる形を作る必要がある。 ○ 私立高校の無償化等の影響もあり生徒募集に苦戦している。校長は近隣の塾を 200 校以上訪問した。職員は中学校を中心にスクールガイドの配布などを行い学校の教育活動を PR した。 カ 学校経営・組織体制 ○ 本年度の教育活動をすべての分掌、学年、教科等で振り返りを行い、研究紀要を作成した。記録を残し、改善点を次年度に伝える目的が達成できた記事もあるが、まだまだ、十分とは言えないので今後も充実を図ることが必要である。
---	--

○ 教職員全員が教育公務員として誇りをもち、服務事故を絶対に起こさないよう、組織的に対応する。個人情報の管理、体罰、会計事故等 0 を目指す。 ○ 各教科、学年、分掌、各種委員会が一年間の活動を振り返り、実施した記録すると共に改善点を次年度に引き継ぐ「久留西 2024」（紀要）を作成する。 ○ 教職員の働き方改革について、管理職は教職員より意見を聴き、企画調整会議等で具体化を検討する。 ○ TAIMS、ICT 機器を効果的に活用し、業務の効率化を図ると共に、教職員の情報共有の充実を図る。	○ 学期毎の服務事故防止研修を行った。副校長による職員への声掛けを実施し、個人情報の管理、服務事故防止に努めた。企画室は複数の目による確認を徹底した。事故報告は 0 件を達成できたが、今後も細心の注意が必要である。 ○ 100 ページを超える「久留西 2024」を完成することができた。次年度に向けて内容の充実を図るとともに校務改善に役立てる。 ○ 長時間勤務にならないよう、産業医の助言の下で安全衛生委員会を開催するなど、副校長を中心に働き方改革を進めた。次年度は 8 時 35 分出欠確認に統一し、朝の時間に余裕をもたせる。 ○ TAIMS の Step3 への変更も円滑に行うことができた。ICT 支援員の力を借り、校内の資料のビジュアル化もできた。採点システムの研修会を若手教員が行うなど、良い改善も進んでいる。
---	---

(2) 重点目標と方策

() は令和 5 年度

重点目標と方策		数値目標	
学習指導	授業満足度	90% (86%)	→88%
	家庭学習時間 1 時間以上	40% (35%)	→29%
生活指導	遅刻回数	3,000 回 (3,150 回)	→4,734 回
	特別指導回数	5 件 (8 件)	→48 件
	部活動加入率	75% (71%)	→65%
進路指導	進路指導満足度	90% (88%)	→89%
	GMARCH・日東駒専	7 名 (5 名)	→2 名
	進路未決定者	4 % (5 %)	→1 %
	資格取得者	100 名 (95 名)	→58 名
健康づくり	全教職員での情報共有会	5 回 (5 回)	→5 回
	ケース会議	12回 (30回)	→30回
	教育相談に関する研修会	3 回 (3 回)	→4 回
	生命に関わる事件・事故	0 件 (0 件)	→0 件
学校経営・組織体制	学校満足度	85% (85%)	→81%
	応募倍率の向上	推薦 2.5 倍 (2.15 倍)	→2.27 倍
		学力 1.2 倍 (1.08 倍)	→1.18 倍
	学校見学会・学校説明会参加者数	1,200 名 (1,164 名)	
		→見学会	249 組
		→オープン SC	432 組
		→説明会	284 組

